

平成16年度

国際交流基金賞・ 国際交流奨励賞発表

平成16年度の「国際交流基金賞」「国際交流奨励賞」受賞者が決定しましたので、ここに紹介いたします。この顕彰事業は、1973年から毎年続いているもので、日本では文化勲章以外では唯一、天皇、皇后陛下下拝謁を賜るものです。なお、国際交流奨励賞は本年度から、国際交流基金の事業の柱である「文化芸術」「日本語教育」「日本研究」の3分野に対して贈呈されることになりました。

国際交流基金賞

穂吉敏子

「あきよしとし」氏

ジャズピアニスト・作曲家 ■ 日本

ジャズの分野で演奏家、作曲家、およびバンドリーダーとして多大な業績を挙げるとともに、音楽活動を通じ20世紀以降に人類が置かれた状況を問い、平和と協調のメッセージを世界に発信してきた功績に対し、国際交流基金賞を授賞する。



■ 経歴

1929年、旧満州（現在の中国・遼寧省）の遼陽に生まれる。1946年に引揚げ後、九州の駐留軍クラブのピアニストとなる。上京後、1951年に渡辺貞夫を加えコージー・カルテットを結成。1953年、来日したオスカー・ピーターソンに認められ、ノーマン・グランツの手で初録音を果たし、アメリカのジャズ・シーンに紹介される。1956年、米国パークリー音楽院に奨学生として留学、1959年に卒業。1973年、ロサンゼルスで夫ルー・タバキンと「トシコ・タバキン・ビッグ・バンド」結成。1977年に水俣病を題材にした「ミナマタ」を含むアルバム「インサイツ」が『ダウンビート』誌のベストアルバムに選ばれる。1983年、ニューヨークで「穂吉敏子ジャズオーケストラ」結成。1999年、ジャパンファウンデーションの派遣助成を受けて南米（チリ、ブラジル）を巡回公演。2001年、「ヒロシマ そして終焉から」を広島で初演。2003年、リンカーン・センターでビッグ・バンド結成30周年記念公演。同年、カーネギーホールでオーケストラ解散コンサート。2004年秋、セクステットでの来日公演が決定している。

■ 著作など

『ジャズと生きる』（1996、岩波新書）

代表曲「ロング・イエロー・ロード」「すみ絵」「孤軍」「ミナマタ」「花魁譚」など多数。

■ 受賞歴など

- | | | | |
|------|---------------------------------------|------|--|
| 1974 | ジャズ・ディスク大賞銀賞（アルバム『孤軍』） | 1999 | 国際ジャズ名誉の殿堂入り |
| 1975 | 第1回南里文雄賞 | 1999 | 横浜市文化賞、大分市合同新聞文化賞 |
| 1982 | 『ダウンビート』誌国際批評家投票で作曲・編曲・ビッグバンドの3部門で第1位 | 2000 | 第16回東京都文化賞 |
| 1986 | リパティエール賞（「自由の女神100年祭」） | 2002 | ニューヨーク日本商工会議所栄誉賞 |
| 1997 | 紫綬褒章、ミュージックペンクラブ音楽賞、エイボン芸術賞 | 2004 | ケネディ・センター・メアリー・ルー・ウィリアムズ・ウィミン・イン・ジャズ賞
ほか、グラミー賞候補として15回ノミネート |

国際交流奨励賞・文化芸術交流賞

ジェームズ・クワン James Kwant 氏
シネマテーク・オンタリオ・シニア・プログラマー ■カナダ

北米地域において、他の文化圏、特に日本の映画の上映会や出版物の刊行を通して、日本の優れた映像文化の研究と紹介に顕著な業績を挙げたことに対し、国際交流奨励賞・文化芸術交流賞を授賞する。



■経歴

1956年生まれ。カナダのサスカチュワン大学卒業後、1985～90年ハーバードフロントセンターの映画部門を経て、1990年よりシネマテーク・オンタリオの上映企画を担当。世界の映画史をテーマとした特集上映で知られるシネマテークにおいて、日本の監督の作品を精力的に紹介してきた。1991年ジャパンファウンダーションの招へいにより訪日。2000年より現職。

■業績

1990年から現在にかけて、黒澤明、鈴木清順、今村昌平、市川崑、深作欣二、溝口健二、小津安二郎などの作品巡回上映会を実施。映画批評や映画史に関する論文多数。北米地域を中心に講演多数。

■受賞歴

1995 フランス芸術文化勲章
1999 全米映画批評家協会・特別賞
2001 トロント映画批評家協会・功労賞

国際交流奨励賞・日本語教育賞

李徳奉 「アー・トクホン」氏

同徳女子大学校 外国語学部教授 ■韓国

日本語教育学の分野において先駆的な業績を挙げ、多くの後継者の育成に努めるとともに、韓国日本学会会長などの要職を歴任し、韓国における語学教育政策の形成にも優れた寄与をしてきた。その活動は、韓国と日本の人々の相互理解促進に大きな貢献をなすものであり、国際交流奨励賞・日本語教育賞を授賞する。



■経歴

1947年生まれ。ソウル教育大学教育学科、国際大学日本語科卒業後、筑波大学にて修士号、博士号（言語学）を取得。1983年より同徳女子大学校外国語学部日本語専攻教授。2001年より日本の明海大学外国語学部日本語学科客員教授。1999～03年韓国日本学会会長。

■著作

『メタファーの心理学』(1990)
『マルチメディア言語教育の理論と実際』(共著、1999)
『日本語教育の理論と方法』(2001)
『ふれあい日本語』(日・韓・中3カ国版、2001～2002)
『総合的日本語教育を求めて』(共著、2002)
など多数。

■受賞歴

1975 全国教育資料展ソウル市教育奨励賞
2000 教育・奉仕部門優秀教授賞(同徳女子大学)

国際交流奨励賞・日本研究賞

高良倉吉 「たからくらよし」氏

琉球大学法文学部教授 ■日本

アジアという広い視野から沖縄の歴史を考へ、海外の研究者とのネットワークの構築を通して先駆的な研究活動を展開している。その成果は、アカデミズムの枠を超えた広範な層に影響を与え、ともに、日本の将来像を考究する上で多くの示唆に富むものであり、国際交流奨励賞・日本研究賞を授賞する。



■経歴

1947年生まれ。愛知教育大学卒業後、沖縄史料編纂所、沖縄県立図書館史料編纂室専門員、沖縄県立博物館主査、浦添市立図書館長を経て現職。九州・沖縄サミットの際、会場となった首里城の復元に貢献。

■著作

『沖縄歴史論序説』(1980)
『琉球王国』(1993)
『アジアのなかの琉球王国』(1998)
など多数。

■受賞歴

1981 『琉球の時代』で沖縄タイムスより出版文化賞
1988 『琉球王国の構造』(1987)で沖縄文化協会より沖縄文化協会賞
1988 地域活性化に対する貢献で日本青年会議所よりTOYOP大賞
1990 『琉球王国史の課題』(1989)で沖縄タイムスより伊波普猷賞
1997 琉球王国史の研究で沖縄協会より沖縄研究奨励賞